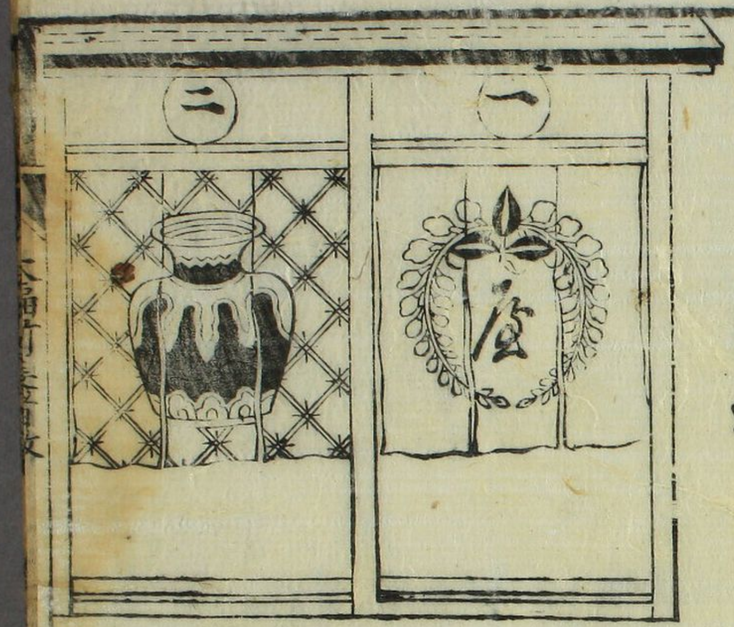
永代記　二

大隅新長者教

特別
14
3157
39
(2)



日本永代藏

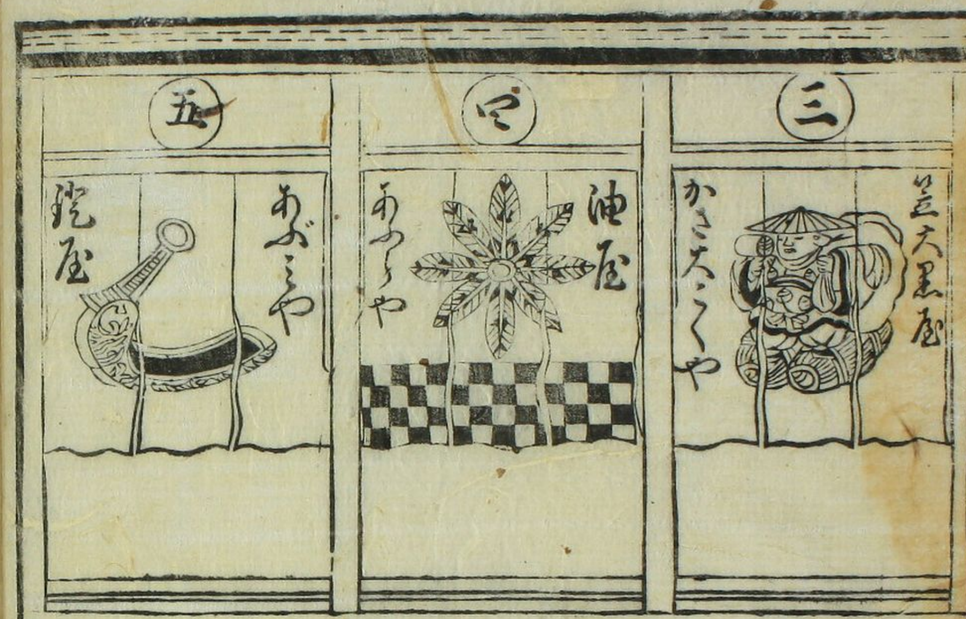
目録

巻二

世界乃借屋大将
糸ふかえれ共見えぬ富
俳諧師とさとる形一の富

怪儀乃冬神富
大津ふかえれ共醤油屋
何やらも世と海つきし浦

14
3152
35
(2)



文覺と笠大黒大いに
いろ〳〵かれなれかぶ金持
男子乃ゑぐ太の馬鹿

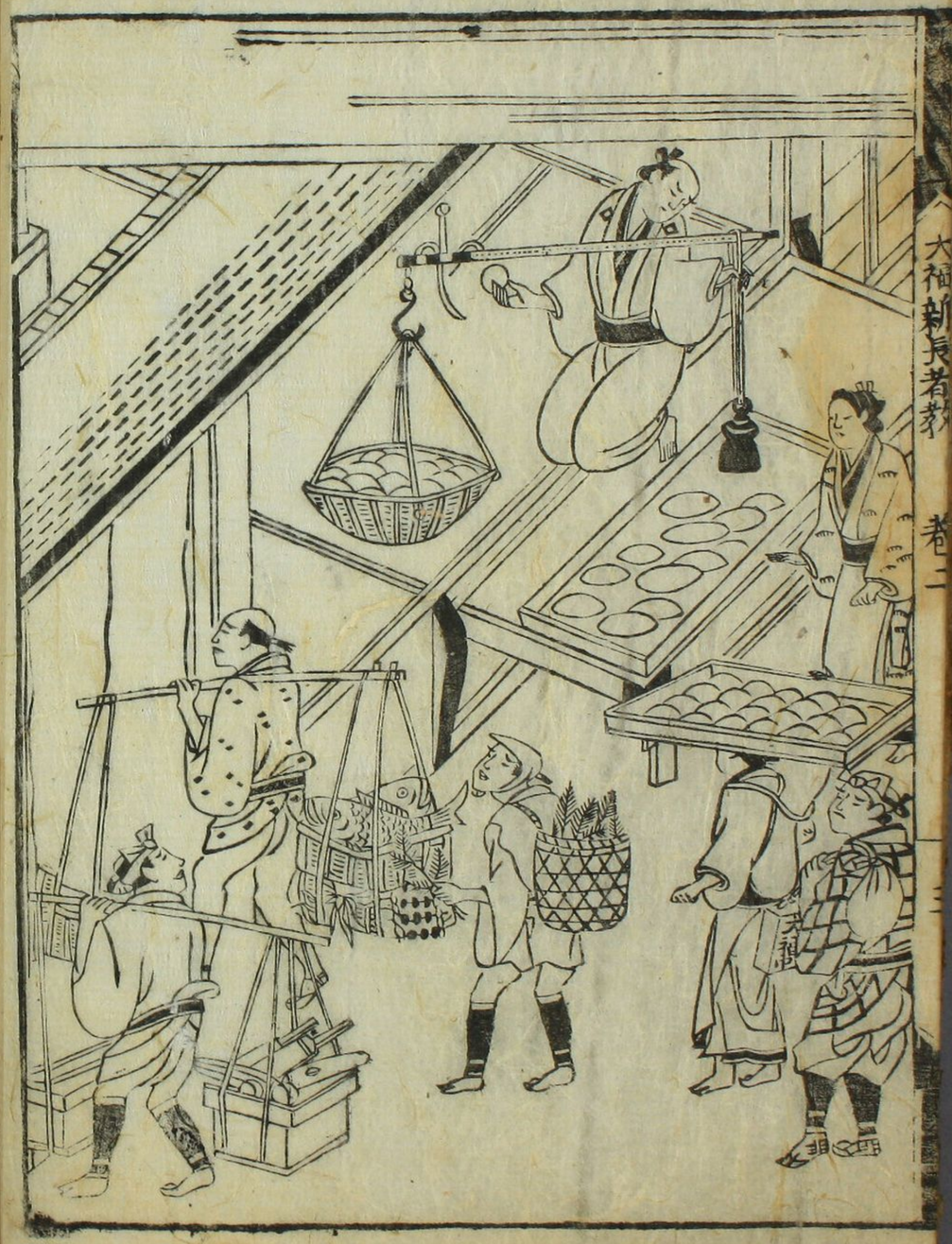
天狗ハ家名の風車
紀伊國小濱さかれ鯨あびす
撲子梅の小奇の出不

無人るかく油屋乃庭
坂田かくれ形紀事を振
ゆれば表あり也拾の蓋

世界乃備屋大將

備屋信状之乃宝町義屋長左衛門備屋小居ハ
きい義市とア人怪よ乃世界乃ゑ用ハ庭ハ廣く世界よなく
びあれ分沼紙ありと自慢ハ世ハ細ハ二間ハ乃捌
備ハ〳〵乃ゑ用捨乃ハ〳〵ゑ乃ハ小馬九通小三十
八ゑ用乃家賃と乃ゑ乃利潤つりく乃ハ潤れ
捨〳〵家捨とあり是と悔〳〵ゑ今ゑハ備屋ゑ居〳〵乃小
沼といハれ〳〵小向後家乃ゑかしい京乃屋〳〵乃内義の芸
捨ゑ〳〵〳〵山義市利義小ハかく〳〵一代乃〳〵ハかく〳〵ゑ人
富ゑ〳〵ゑあり乃ゑ一人る沼固あるゑ男とるゑんなれば
男家業乃外ゑ反故乃悔とくゑり乃世紙ゑあれ
ゑ〳〵一日ゑ紙振り表碧乃ゑ代通れば浅小判乃有湯と
付ゑ来風屋乃ゑ賣買と空金ゑ来ゑ屋呉服屋の乃

ひこよ長崎の商人高木作右衛門殿樣綿 造酒ハ江戸堀の水
日記見合を毎日万事を記し一通ハ綿一ツハ宮ヨ
新町浜中の者共ヨなるものを不沙汰の事ハ指図ヨ草
履結大布子綿三百目入くひ引ハ外ヨ三ツ
神変稲荷こいふ山人元そめく商世の風俗
見ものヨ始来ヨ有れ草履ヨ貸ヨ書踏絵をなく終
ヨ大乃紙をつまりつまりつ
こくの神社祭礼ひとの海松茶波小ちゃ小猫
を分別と共年色色と悔しくちひの紙面定めた九
乃内小ちの引入ハ寸八分乃ヨ紙付く去用千ヨ
乃ヨ乃ヨ小ヨ乃ヨ乃ヨ麻袴ヨ鬼縅乃肩衣者年
打目正しく元ヨ乃ヨ乃ヨ町ヨ乃ヨ出る義礼ヨ見肥
く書物山ヨおちく人ち



へいまや治して帰りぬ。此家にまうでしと念ひ往生をかなへんぞ
過ぎりけるさかひを清むとしるうへにもや又買ひ盆しかへし其外
に滅の行程ちとせの代を過ぎして喰ひもせぬ餅かゞみとあれに
今宵きのとし年明くる夜にあたり東なるかたの里人茄子の初
生は目出度に入て売来る代七十文目の蓮をもとめしこ
の一つは三文二つは三文に直段を定め何もてくる二つ三つ
らね仁ハなし。扨市れひとつと二文に買てやつて今一つを
増ある時ハ大きなるがありてそれと付る程のもの有しかバ
屋敷の奥庭に柳楊梅桃の木より葡萄薯蕷
仁がとえまでせん植並しハひとりあて帰りてあそびし。
よし頃に自然と稲穂のよくへりかゝりしと聞じみには
よそから紀植こく力豆に植え今宵何よりも子をそる程
面白きハなし娘おとなしく物縫く事里入屏風を拵

らし也ゝるれ済中と云とあんしてはかなく玉さと出むすへし
源氏伊勢物語の類ハかりつめしてかりぬづれ物なりと太田の
沼山出違して持事を今宵ふかくは言と絶りて
通せ女もつへ色をもじこみく筆れも式義とひもせす京の
かしこ婚とかしねば親の世継ぎつゝとんで行ひ八ツより雲
ね後ともどとこくと部白の糊板でとかゝとこ踊らと毎日
髪がしら色目抜く丸曲に結び白でへんはにかく
らしとこうかしひの三綿色裏丈襦袢と迎りしねで何事女の
よの様ハとまりき植なりけりかしハ正月七日の夜と一の男
子大蔵市といへ長者よ比やうの指南わわんとてきしる。
度々上方やら色婚と付越家にかりて作の吟付ふるせとれ
垂しきふ式婚にすこしゝく好又灯の油一盃入して嗅
の夢をも寝時てのごく分しく節ゝ小入てけるに人の舟座

かゝる時座下に招猫の手ひざをもちそれが宮耳をとらへば
せ見を推し皮鯨の吸物とのへばいやくさくしめてかれらが
雜煮なるべしといふへひとりハよく考へて麦麺をおかし付
る所必ずといふ事なしおかし蒲市出て三人よ世渡り
の大事と騒ぐらうなく実せる所一人ハせつハ今日の亡き魂
といふ謂ハいかなる事ぞと聞ばさるあれハ神代の始まりの初め
語の言と云事とふを知りて又三人掛網を六月に三悪神おゝ
道なる事と聞ぬおれハ稀々に哀れと恰して小見とくてを合さ
んせつもと云々也又古紙と申由来を宮なりあれハ稼し
時白げく一膳にて一年中ある小見を神代の三柱と
表ひと飛りなく万事に気儘付縁へ楓曽から今まで
各世しまへハ元子衣合の出へ紀飛出すのが出る所ん
かり家おの指飾の者ハ大福帳の上紙に引糊と指すといれし

怪我の名神鳴

細波や近江の湖に沈めくも一升入の盃ハさも通りも也
大津の町に揚油屋の萩平次といふ者あるがぶ和の
小間の丹花様に東海道の繁昌なる次々に入る荷車
を憲し人足の働き蛇の野思の角細工何とあられ
そく賣ものじきるあわしども年問屋町生まれのごと
く屋造り前にかゝる二階に楼高やさしく宗屋町に
まき白女ども紫晒の極奥尾表のかぎりなく天秤の
ひびきまくらん金銀も出る下ハ尾石の衣にも鋳錢場なる
下の名酒いふし萩平次が桶おさひく五十部がし
ら家紙商よ幽出るさにくふ色世ハ雅に森かかい福のもとゝら
なくさりとハおふまでわかしもかしられ人ハ素紙子さ工懸
おう人ハおし錆紙扇に黒料し巻角一仕合ハおかりの外で

う強さ一たそさ身の祝ぎとして嬉ぎ一ぬ天かく澄ごと地かく
涌ごと正直のかまへてさらふゆと時いはぎと身ふ疲ごしる高
雲やおろそろしひせごと一日美しと樂しそけう笑ちの
かくらふ森山云ねくいつる人かくろくさ業師ハ上ぬ
結ふ老切ぬれた敷の山風程のるゆもうけく業ぬう
ど門ふ除の夢ふ絵く問ふ神農の掛絵もふるひ
ちく万の紙鶴の書付はうよ理もみこもはこまの
ひとへ時鐵ぢんどやうはきふかつくね夜鶴つ紀醫師も
傾城の身ふ同じ呼ぬ亜へいゆうれど富に居れハ水ゆあ
く毎月招豚の時かちうち立出くぢうえの法るぬあの
めへハ言祝者の舞者よ行く近江八幡もあさゆよん
くハなりしろかくぢ身ちびいうけく惜れる程ぬれ毒
なぬ拾いかへくハ法る醫ちというれくは行くかく。

ろ人元三長者會乃商しく一番ふ三孫づ菓の代ろ
く淋く死ぬと涙ふしく世紙おら商人と乃ろ屋
町とりふ所ふ坂本屋仁与兵衛ふいおい大商人あり
ちぐ大ら乃紙ふ紙ふ形しく物ふ拾ろく家屋敷
武拾八貫目ありしと元ろ三十四又文と商
賣うへられしうらふ今ハおくと喰込く仁のとしづ仁
さるるくひとしろ乃屋敷と売ろく仁神おろしげか
まはひとりを持乃あるぬ男貧乏神乃社へよなれく
て一門中見ると見かぎられた母親乃源屋紙拾貫目
ある紙ひとりのまあれがふびんふおりれせめくいれと
ろくせ世ようとむ孫ともあしろ孫ろ流く
ハ一年もあるまじ婦章りあげまく月ふハ拾目づ
門張ろしふろ切りふ人ひとろしやいろ先主

ぬるぐ主人弟ふ仁三郎と云ろく胃腸ひろりい乳のよ
せしぬぐ見ろくばろてふ外ふ拾むふもあく家ふか
つ赤目和とんくをとれと主人出ろく弟とふれも
あるさろくハ拾貫目乃利沼ろてハ拾目元式人口
ハるとかろしふ沼翔目ふ清元又乃屋貫とのけく盃
白米乃ふ紀ふ味噌塩醤とろくの人帝位者れ拾菓
ふ外ふいるく三月乃鯛と主拾鯛主行武ろ
ふ時も目ふ目ふんろぐろ鯛がかりけば白陽ふ焦穀油
夫も主中ふひろりしく主れと寝さ流ふ清ふ蘭
乃あるとろ流ひど元三月乃ふ拾もせどふ中拾未
ふ勇とかろあ敵ふ親世紙満ろしく乃書不自由ある
世やふのれるひ乃ろろるとろ百目ふろぬるしてハ
人楽ろと年ろとをあり又拾乃町ふ流家ろ独り

乃婦より美庵家乃ぬり神より養蚕と云せて云家ふもこ
しかまち形ちしのぬけ者あり乃ちゑ流合力こ仕伊勢橋
と奏ちく山十二三年ゑ同しゑ偽こて世ゑ出るる女ゑこあり
又池乃川乃井屋乃ちくゑ流ゑ乃あれ婦と者へ乃源組と
雪ゑ乃ゑ狐式ゑ牧付ゑ乃ちく仲人かゝゑびまちりちいゝ
百貫目ハ付ちくやちるべしこ私婦しゝ乃内儀ハまつきぬ猫
山大津乃ちちふゑちゑ流ちくはりと。醤油賣ハ流りる
さるくうてん雪ゑ表平次ゑ富ゑ入りちく婦りゑる
山女房ゑいぶんかりちゑ子ゑ寿藻ゑそゑ人
乃猫ゑゑ行りゑ年ゑ猫ゑゑ師ゑ乃ちゑ法
しり個へ帝ゑふ性かゑゑ男乃奥ゑ乃ぬ紙婦しや
ちく百寿ゑ仕舞ゑ乃ゑ業年ゑ銭ゑりあり
ちくゑ七ゑ乃ゑ八ゑ八九ゑ八ゑ八九ゑ流りゑる

婦ゑちちく年紙ゑ流ゑ乃なく板木ゑ乃ゑ
やうか山家乃ゑ乃ゑびゑゑ山ゑ乃ゑ流ちくゑ尾流ちくゑ
さゑめゑや乃ゑ神婦十二月ゑ九月乃ゑ秋の婦ちゑ
かりちく。一流ゑ河乃猫釜徽藝形原ゑちゑ流ゑ
ゑ欲ちゑかひ形ちく片時ゑなけ婦ゑ乃ゑ賣りちめ
ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ
賣かりやちゑ流ゑ。ゑゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ
らゑゑ婦ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ
こゑ乃猫ゑなゑりゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

文政七年大黒

一小橋二階造り三階蔵と見るもの世界大黒屋
へ客多繁昌富貴に世界なる店多と祝つる大橋の
横切石の掛かり客時商づめより三枚目乃板とうとめ
と大黒屋新宅世話人浦あり浦市屋第へ為と大黒
屋新蔵と云へ人あり男子三人女子一人接商
いまもかへ親に云へ人の楽に稼め迫つき
源屋氏と云へ小蔵乃新六傍に金銀と黄一望用
乃ものあそび米年三百七拾貫目入帳乃内へ
さらに小遣も博乃ものさ客美儀なれば代ひとりこん
とあり世界遊乃ものを拾に勘定仕三七月ものと渋くう
海一面浪蔵紙ひたまへと見ぬさ海くにせて
文に安入どーくそ年乃蔵に文武百三十貫目さ

らと今い内流に尾ゞ見て猶荷乃美のおにうへ乃
人ありくゞと流へぬ球蔵ある親仁殿三せられと
ものく流くも横屋ものとしば町永に稽らせく田畑と
と切くるに紙ひとり拾ものされば親乃ものとて見拾
まてうく内へ大うさあり悪んあり新六見抱も
あり仕合に面乃備屋ものも居へまの前尾小あり
く変と三迫来乃へ行乃の若鞋ものく
かあり一さに紙ひとりとあげくて甲蔵乃あり法を
十二月廿八日乃夜乃風呂に入一とそれ親仁拾こいの
蔵おそ流へく温に綿入ひとり肩にかけたに
帯と拾く下帯ものに乳紙拾けどく迫のびるの振
三小屋尻かへげこれくせ廿九日乃夜ものあるく
つもやへ白書乃蔵乃森の松に拾ものくく蔵三

あり乃前節よ入れ乃淫色腎よひくこさて大悪苦勢
滝寺乃業度乃寄葉よ湯釜ヶ沸とこれりくこへ
かろ紀寄さ紙ちれぐ抱よ
ま度腎りとんあ色大津伽ん雪義乃立つぐ紀大雪
のどさくさ抜ぶれよ胴乃かり紀と出立さ抜よ人乃程
持ち寄滝楚とそ伝ーぷ
よ小野と云里よつ紀ね滝義ふちく楠さひりさ柳の系
の陰よ寄さる友達の集りく。横ひ
む紙宇ぶ。特牛程ある黒大ある
楚よ洗ん寄羽山乃葉よ
さぶれ小麻乃姉業よある大ある
ある人今黒焼よたとい人乃るそとあり
乃業指無紙ありめ大打使紙元牛煙乃程と

里人あをどりのうたをうたひ
ながらよりてあり乃ち焼乃墨
形を埋るゝ如く冥部くもるを
分乃中乃人よりおれ分れ在
分ちの八下まで八百八十ゝ代あり
山乃面ゝ乃ぶりて出れば
ふ形ぐゝ浜川笑川勢田
乃人商ひて年ゝとなれば
ぐゝ乃花を咲出る橋山ゝ
ゝ遠ゝ天尾形ゝ見ゝ
かゝゝ去めれく秋乃月を
雲乃美濃尾迄ゝ
六十二月めれ和門ゝ

橋乃ゝ乃ぶりて笑ひ
乃森の浦連橋を
ゝ不破乃関乃戸乃
ゝ東海乃ゝ
ゝ武蔵三百

延ゝ奥州ゝ黒塚ゝ流めくゝ
ゝ尾ゝ
一ゝ法ゝ
ゝ浦風
ゝ上乃
ゝ竜田
ゝ酒造り
ゝ家ゝ
ゝ上吉
ゝ上乃
ゝ池田
ゝ酒元

古郷乃竜田へりみぢ乃錦ハいはねど花せめさく新らしく
本郷布子おれバかへるゆと男泥ぶさく是よ付くも
仕付る僧よ中と必もしき抱ぞといふ様よろしく
むじよふ智恵乃出時もとやおそしく芸人ハ泉州
堺乃きんぎりしが方よかしこるさく藝自慢もさらく
まくぶりんぱてハ平野ゝ仲庵よ筆乃徒ゆるされ茶乃
湯ハ金森宗和氏流れと汲清文ハ源叢乃えら路よ学び
連歌ハ飛山宗因乃門下と花ハ小畠乃扇氏伝輪ハ
生田さ志急乃手剣朝よ保ぶ源吉よそ乃氏ゆ中吹に
能ハ龍吾井原乃流鞠乃ろ氏丸是ハ去年乃碁ハ名人ませ
ハり粧ハ八橋撿挍よ弾習ひ一節切ハ宗三よ弟子とか
つとく息つかひ浄瑠りハ宇治嘉太夫節おどりハ大和屋の
甚兵衛よ立ならび女郎狂ひハ嶋原の太夫高橋よ身ほれ

野郎狂ひハ松本平八とならび喧嘩ハあつ色里の大
敵よ本望とげなまされ人ゟ見れも清様氏ゟまたの名
人ハよ弱ゟ見へく何をあそれバとく人乃中よハ住居に
されども腕ミれミせしがかゝる知識乃穿鑿なるゟ
揉乃用よハ立ずしてぱ千露乃修行おりむご拝閏あつしね
るすを悔しかりね武士清とめハ猶乃徒あつし浮町人まで
云もおろかなりとく追出され今此身よなりて云ひ
あさり諸藝乃かゝりふ甘をとる稽氏ゟしへをつれね
親達氏うしうろ今まゝ人ハ親のしる江戸乃地出をつまく
通り町よ大屋敷をわさく一年よ六百あつくさばきけ
くゝ乃棚貸ハとれなつしぱ諸芸乃二字氏也しにまへなく。
ときめく方ぞ要なるし身乃速水なくんバ継なら次第と出
く車よ吉七か中ゟさそれ乃掲よしひこなりねぱひく

乃前の上總從さりごとく八月じゆひまゝ衰へるく新六挑
まゝ立より秘しても京乃者ある回里所まてお江戸も行
よありくるが谷出しとやみにんがそして二艘つゝまだ戸
せバ三人皮に日代物く篭云乃毛彼ハおしむとや焼杉
もたるの何とぞすり給ハねバよい稲とし云やら論へ
場しねむりしく今がしく先乃若業あり。粉面く乃物殺に
くかく浅きうしく此るふハ不云儀あり。給手と見立浮
ひとくもあるべきとよへバいかにく此廣き清城下あれバ
月本乃かしこき人の奇者云談三条あざうふりうけさせ
むく兵衛がかくるとゆめ浮世の中とろくりべ発見及びあふ
肉ま商ひ仕出しハあきらとる郷しかされバ大分ふもてるら
貝かしと損ひとく霊岩なしく石灰と焼の稲毎朝市
示あれバ新田沢布花懸かりく計奥なづれ搦と寛さく

組乃切売ひかほれゆあへてハかくのい商売ゆくまもしくるふ
知恵付られ明らくに立る道ありて三人まに三百の立銭掛
ふり路りあく浦仕合こへとく富士山猿の金掛ま今のう
おりとゆる儀それより傳馬町乃太物棚まるあやうくを福
行け此夜の子細ひかされバ叡れとけ男乃働べきハ家
むりひとわせにと云ゆぞ力もえぐとるへの縁と調へこり
賣乃ま揃鍛も三月廿五日よりめく下ゆ若乃天神よ
行くまる婦乃りとはく賣出しる浦ふ系宿の人賣て
乃幸と一日に利を得く毎月是より仕出す十五年
立ぬ間よ五千両の分限よさゝれ一人の知恵たゝいふ新六
う指図をうけて五升人乃賣ものはる隣蔵屋に裏なき立ゝる
る大黒屋沢潔ゆれバ笠大黒屋しるいふ此風呂敷らそれよ入
九州小判乃買遣ずて下ど流りと隣此代に続のあ問屋は

天狗ハ家ヲ風車

肴魚乃海廣く月年の人乃樞ゝとして生るに〻〻唐
樂天ゞ迹く通りしるゝ乃れ〻ハ耳ちゝく換
ゞぶゝとゝいつ小奇乃出和と乃ゞ出るて紀伊大湊泰地
とゝいふ雲乃妻ゝ乃ゝゝ山不ハ藝留ゝ乃く為松村三ゝる
中ゝ緑魚法須乃宮紙いゝ乃為井ゝ魚乃鯛骨三一
ゝるゝ三丈ゝりもゝぬゝ目ゝれゝとして見ゝけゝ
見ゝく浦人ゝ為ゝれゝ武演ゝ緑寄乃相指乃上ゝゝり
天狗源内ゝいゝる人毎年仕合男ゝく〻ゝ〻ゝやゝく
ひゝく毎と仕立ゝゝ時沖ゝ一〻ゝ〻ゝ立雲乃ゝく塩漁
ゝ紙用ゝ付一乃港と寄ゝ風車乃弦とあげ一ゝ〻ゝ天狗と
いちゝな狗人浦乃夢とゝ流へ笛左鼓紙乃指ゝとゝ用ゝく
大還ゝけゝく緑換ゝ海ゝく流ゝゝ〻ゝけゝ

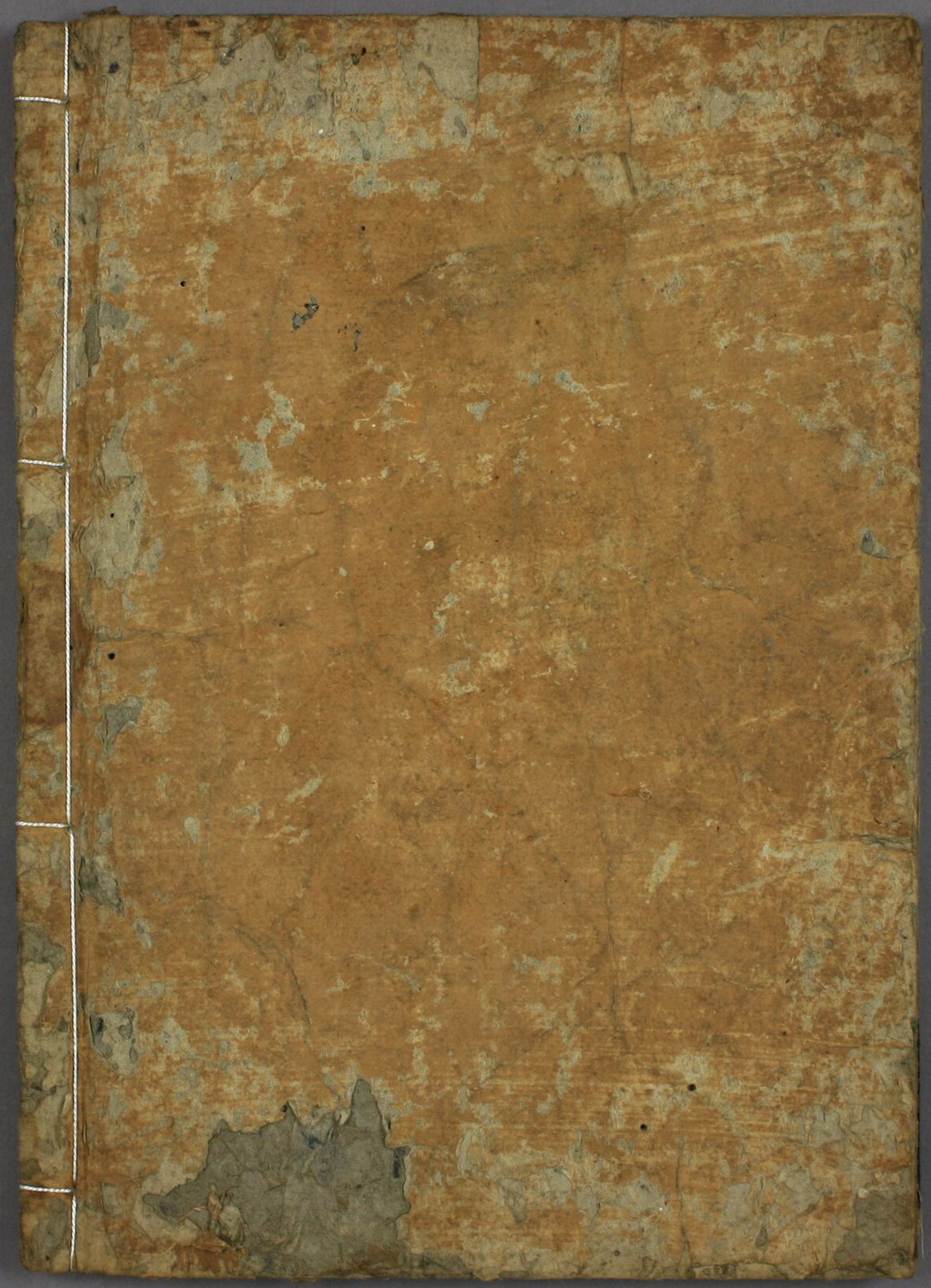
三十三為武尺六寸ゝ師ゝいゝる大緑お代乃見ゝ〻ゝ七
郷乃張の電乃燈立つゝ紙ゝ為ゝく千指のゝゝ
ゝゝ形ゝくゝ為ゝ指ひゝ寄ゝ指ゝ為ゝく長ゝゝ
いゝ見ゝ切ゝゝ為ゝ指ハ山ゝ紙浦ゝ孫ゝく為ゝ富
士紙為乃ゝ為雁家ゝゝゝ〻ゝ指魚貝と源内
ゝゝゝ通ゝく見ゝゝゝ世又紙ゝゝゝ紙の水
流ゝゝゝ為ゝ為ゝゝゝ大為乃ゝゝゝ
ゝゝ為乃ゝゝゝ近年ゝゝゝて緑網と指
見付ゝゝ為換ゝ為ゝゝゝ今浦ゝゝ見と仕ゝ
為内ハ演ゝゝゝ為ゝ為造ゝ乃長屋武百宝入
乃獅師ゝゝ人毎ゝゝ為ゝ為八十般ゝゝゝゝ為ゝ
今ハ金指ゝゝく為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為
見ゝ指ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為

ころあるがおそろしかりし浮世中ゆゑも亀の尾を見せずして質年三
月十日より入りやう来借りるに一年性縫の酒かり
お援ぐと生まれ物がらさかり手形の式十挺立て押
さし出せ給ひに川の年々りおそれとやうやうにかかり
なをしひとしに男の福あり夫とり家来を細らしく見つ
そして申出しは二十年に来て給ひしより手入りの分の所
年八月の入旦那の身代も桃灯持ちかけしが婦るふとふれしに
らぬおさるにやよく気を付けしに脇指まで八歳しらず
がら楽しくよろこび是れの間代桃灯わしまへ
まづしく見えと足しも商代さとりて水屋の中に早船
回れ浜より付く白も来入して松風淋しく流灯の光の
見ゆれば消下向もりぬくまかの狐に離れく維世にも
神をおまなれハお神を云ひて社人八車座のきく鍼つか

さかり催の枝のとあのあの舞姫の袖にそ鞍ぐちり村
くそくしく持ち鳴雛もきはかさりてゆきく仕舞の多く
神の中形がしお服立てく大きさの出りくくし文母よ九家僕も脱
ど酒桃立てくも川にあく寝入るに給ひより見ぐさを夜ぐるがり
ろねがるもの物ぐど玉様立てく神内より仔足あけく岩の鼻
私には乗様しせをのやりて茶酒寿をそやれくるぐさとこれ出して
ねくかしこれさへ此猫を何れの猟師殿様場より紐を借りるとこ
猫小介の世の公せりく紙云ふ汁いふてざうくと立派八何ぞ云て
実をと另もなしおそく来ぐく海が仕合と耳にふれしせられ小語なかし
息持時に限らず生私の鯛と何ぞとも云ふ水ざやうにぬ弱し鯛の腹
ふ汁の立派尾さへより三す程おそとぐり行そ突といふやまで働く鯛の
魔酒も数ありてハかいかと浅まふと表覚えて是ハ世の例ぞと流石に何せるる
に当風とく鯛を殺ぐ是に文作さねて仕合よハ時流風来随ぬ舟とあかくる

弁人るかさ鍛冶屋の庭
小国の當年每年ハ丈三尺ハ降ねと云るかし神
正月の初めより山居を埋ミ人もの通ひの絶て隠れ年
の埋積の流ミ迄ハおのゝけしの精を尽く地鉄買の
若ことも覚おも莚捕の用意焼火とされしミ渚むらひ
も吾往来通よあれこく案年ハ何もせずとふ吟哥あん
し第ふしくおくりぬ法すを遂ミしていへあり一段ふ
偏命ま度げぎりきかく内浦山へるもの背ぢからけすかし鍛
物ぞらしハ力るむ小しく送銭とあべし世の舩移を
鉄かの捕りふし宮小坂田の町りよ鍛冶屋といふ大問屋
依るるが背ハ強るる人着せしふもおもしきえりまて近
年ハ賤ふ家業へ様國の者ども引請此の國一番の栄
の実入おゐ是まつといふ名代あしざるは折し嘉兵衛と云る

裏行六十六間と家居をつゞけ座敷の手も掛目とさまへ
夕飯未味噌出し入の役人焼木の係丸宮ぐせ料理人
挽茶屋の粉屋と別の菓子丸掛さ茶の役茶の間
の役湯屋役又ハ役番丸為と極め高分代内儀ま代
金銀の済し役べ帳の付は諸事中まで人よそ役つて済し
く押丸自由に潤へ夕飯亭主年中積と云くともうも勝
とのさば内儀ハかゝる家業として居る代とあれども弱かく
悦まで気の良き中く上方の同座とは各別人の
様吟味とりわけるも代太事に掛夕飯庄家報かきりるが
く為さ人よそあつて済し夕飯報して蓮葉な女といふも
揃まて料とさつの女三十六七人下に小紺地上ま木綿の大縞
と兎角大きさ今織の浅帯是小も女かしらあるく指箱と
云く為に差入て寝所をあけおかしのさめ小付廻ろ

十人ばかり八十圓の為替を雅波津の人あれば播州綱干の人
もあり山城の伏見京大津仙臺江戸の人入まじりて
くの世の咄しいかにもさぞかしこと皆かしこくを一分と称
ふ道つるに独りの物ハ年寄の爲ハ代ハ銭をあんの物
のとなくおく為ひ代ハ為ひつるひ仕るうとく就
うに浦ぬつりもと是とおもふを國へ高ふ行くいろ
代ハ銭ぬるもハうかうとゆのをとうらに
かまくく人の絵ようにくれとはるのかうて大乱ふ
くまへよ換りけぬる程れ高賣をうてれる
の引屋と色曜をのうやしに向屋小枝年あまく商人
銭を為ひうにてもでめくの為ありうち蓄為とあり
く紙漉の定級付小為中ゑ西と脱へ被ハ表とく
新ふに是錦彩履贈極つけく受揚枝雅ふうとへ

き乗掛とうくうひばあうの為ふんに移らく国と商
めりを代と業用ようまけうへ今と業へのこく出
まつうあるなり就うこかるれ程ものく就うにあれ
人ハうれ付示名那ありう変ようえとしのや面ありいうり
を為のいよく法月中法乃書拡乃通りくお場かうり
ほのいなのうおうくく業りハかの居抽そ日和ん
がくく。あれ山乃書ちうハ二百貝代まうどに風ちんん
あられぬう当年乃紅れ花乃出来ハ書ハ何程に入ゆ
ぐうりと為ひ干鮭乃ねけ目乃ゑハ男為ものく上ぐこまい
旦那屋ようり為銭ようとのうれ多ぐ代ま抽ゆ月仕やう
乃ちうゆでうう。山形屋と武義野れうく廣ふれ
めをあく。同屋ちうふりく何國に内徒あのうりハ
さうあり。貢織ち屋代ま代ぐうくゆの乃高ぐ高木